

令和2年度版(2020年度版)『小学算数』 年間指導計画案(5年)

学校の授業以外の場での学習が可能と 考えられる学習活動を考慮した詳細版

本資料は、令和2年度版教科書『小学算数』に基づいて、学校での授業と学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の学習指導計画案を示したものです。学校の授業以外の場において取り組む学習活動をできるだけ多く取り入れる場合を想定して示した一例ですので、地域や学校の状況に合わせて、適宜、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を増減していただくなどしてご活用ください。

■本資料の見方

本資料では、①習熟や定着のための確認ページ、②既習内容の復習ページ、③学習内容の日常生活への活用ページを中心に、「学校の授業以外の場での学習が可能と考えられる教材・学習活動」と位置づけ、表の右端の列に示しています。

1. かけ算【かけ算のきまりを見よう】 (上P.10~24)

4月中旬~4月下旬【11時間】 **【9時間】**

【単元の目標】
+乗法によって成り立つ性質を理解し、数のまとまりに着目してひやひに掛ける乗法(何十・何百に1位数をかける乗法の計算の仕方を考え取捨すること)と、交換・結合・分配法則などを扱うと計算がくふうできるよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。
【単元の評価規準】
理解 乗法によって成り立つ性質(交換・結合・分配法則など)を理解し、それらの性質や乗法九九などの基本的な計算とともに、ひに掛ける乗法や何十・何百に1位数をかける乗法を計算することができる。
応用 一人の長さなどから乗法によって成り立つ性質を捉えだしているとともに、それらの性質や数のまとまりに着目して、ひやひに掛ける乗法や何十・何百に1位数をかける乗法の計算の仕方を考え表現している。
評価 ひやひに掛ける乗法や何十・何百に1位数をかける乗法の計算の仕方の比較によって、交換・結合・分配法則などのまとまりに着目して考えだしたことを振り返り、乗法の性質などを扱うと計算がくふうできるよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

学校での授業と学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の学校での授業時間を示しています。

時	目標	学習活動	学校の授業以外の場での学習が可能であると考えられる学習活動や指導上の留意事項
第1時	「ひの学習のよさ」(P.10)は、10個の学習や何個学習などを通して解法に接し、		

学習のまとめ	2週間(10時間)		
10	ひの学習内容の理解を深め、復習する。	ひ(たし算のポイント)第24に取組む。	+答え合わせまで行う。その際、発問がひやひのひやひの学習に、教科書に支援する。

学校の授業以外の場において取り組む学習活動には、赤いアミを施すとともに、取り扱う際の指導上の留意事項などを示しています。

※本資料で示した各単元の学習活動、配当時数などは、今後公開される各種情報によって、変更となる可能性があります。ご了承ください。

『小学算数』 5年 年間指導計画（詳細案）

1 整数と小数のしくみ〔数のしくみを調べよう〕（上P. 10～14）

4月中旬〔4時間〕〔3時間〕

【単元の目標】

- 整数や小数を10倍、100倍、1000倍、 $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$ にした数をつくり、その構成や表し方について既習の内容をもとに考えるとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…整数や小数を十進数の加法の構造で理解するとともに、それらを10倍、100倍、1000倍、 $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$ にした数を、小数点の位置を移動することによってつくることができる。
- 思・判・表**…小数も整数の表し方と同じ十進位取り記数法として考え、計算などに有効に生かしている。
- 態 度**…整数と小数が同じ十進位取り記数法で表されていることよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 9)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	○整数や小数で、それぞれの位の数字が表す意味と数のしくみを理解する。	・整数、小数のしくみを調べる。 ・整数、小数の構成を式に表す。	
2	○小数を10倍、100倍、1000倍したときの小数点の移動のきまりを理解する。	・整数、小数を10倍、100倍、1000倍したときの小数点の位置を調べる。	
3	○小数を $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$ にしたときの小数点の移動のきまりを理解する。	・整数、小数を $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$ にしたときの小数点の位置を調べる。	
学習のまとめ (P. 14) 1時間 (0時間)			
4	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 14)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。

2 図形の合同と角〔ぴったり重なる形と図形の角を調べよう〕（上P. 16～36）

4月中旬～5月上旬〔14時間〕〔12時間〕

【単元の目標】

- 合同な図形のかき方や多角形の内角の和を求める方法を理解し、図形の構成要素に着目して、それらを説明する過程において帰納的・演繹的に考えるとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…図形の合同の意味や性質、三角形や多角形の内角の和の求め方を理解し、合同な図形をかいたり、三角形や多角形の内角の和を求めたりすることができる。
- 思・判・表**…図形の形や大きさがきまる要素に着目して、合同な図形のかき方を考えたり、多角形が三角形に分割できることを利用して内角の和を求める方法について考え、説明したりしている。
- 態 度**…身の回りから合同な図形を見つけようとしていたり、いろいろな方法で多角形の内角の和の求め方を調べようとしていたりして、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 15)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 合同な図形 (P. 16～20) 3時間			
1	○単元アプローチ (P. 16) ・身の回りにある形も大きさも同じものを探す。		

2	○図形の合同の意味を理解する。	・形も大きさも同じ四角形を見つける。 ・合同の意味を知る。	・学校の授業以外の場で、身のまわりにある形も大きさも同じものを探して考察することにより、1時間扱いとすることもできる。
3	○合同な図形における対応する頂点、辺、角について調べ、合同な図形への理解を深める。	・合同な図形で、対応する頂点、辺、角の関係を調べる。	
4	○いろいろな四角形に対角線をひいてできた三角形について、合同の観点で捉え直す。	・四角形を対角線で分割してできる三角形が合同かどうかを調べる。	
2 合同な図形のかき方 (P. 21~24) 4時間			
5	○合同な三角形を作図するためには、どの辺や角の大きさがわかればよいか、いろいろな方法で考える。	・合同な三角形を作図する方法を考える。 ・1つの辺をかいいたとき、残りの頂点の位置のきめ方を考える。	
6	○合同な三角形を作図するのに必要な辺の長さや角の大きさを知り、合同な三角形を作図することができる。	・合同な三角形をいろいろな方法で作図する。 ・合同な三角形を作図する方法について話し合い、まとめる。	
7	○合同な三角形のかき方をもとに、合同な四角形のかき方を考え、作図することができる。	・合同な四角形のかき方を考える。 ・合同な四角形をいろいろな方法で作図する。	
※	「つなげる算数」(P. 25)で、既習の図形の決定条件について、統合的な視点で考察する。		
3 三角形と四角形の角 (P. 27~34) 5時間 (4時間)			
8 ・ 9	○合同な三角形の敷きつめを通して、三角形の内角の和が 180° であることを理解する。	・三角形を敷きつめる活動を行う。 ・三角形の3つの角の大きさの和を調べ、求め方を説明する。	・三角形を敷き詰める活動に取り組みせ、わかったことをノートにまとめさせる。授業では、三角形の3つの角の大きさのきまりを見つけることに重点を置くことにより、 <u>1時間扱いとする。</u>
10	○三角形の内角の和が 180° であることを使って、未知の角の大きさを求めることができる。	・二等辺三角形の底角や三角形の外角の大きさを求める。	
11 ・ 12	○四角形の内角の和を、三角形の内角の和をもとに考え、その内角の和が 360° であることを理解する。	・既習事項を使って、四角形の4つの角の大きさの和を調べ、求め方を説明する。	
13	○多角形の意味を理解し、その内角の和の求め方を考え、説明することができる。	・多角形の意味を知る。 ・多角形の角の大きさの和を調べる。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがしやすい問題」(P. 35)で、学習内容をより確かなものにする。		
14	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 36)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P. 128)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

3 体積〔直方体や立方体のかさを表そう〕 (上P. 38～51)

5月上旬～5月下旬 [12時間] **[10時間]**

【単元の目標】

- ・体積、容積の意味やその計算による求め方を理解し、単位となる大きさに着目して、その求め方を考えたとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…体積や容積の意味と単位やその相互関係を理解するとともに、求積公式を利用して、体積や容積、複雑な形の体積を求めることができる。

思・判・表…体積も面積と同様に単位のいくつ分で数値化できると考えたり、体積の求め方を考えたりしている。

態 度…単位となる大きさのいくつ分として数値化できるというよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 37)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 直方体と立方体の体積 (P. 38～42) 3時間			
1	○単元アプローチ (P. 38)		
・	・直方体や立方体の体積を比べる方法を考える。		
2	○体積の意味と単位を理解し、 1cm^3 のいくつ分の考えで体積を求めることができる。	・直方体や立方体のかさの表し方を考える。 ・体積の意味、体積の単位「 cm^3 」を知る。	
3	○直方体、立方体の体積を計算で求める方法を考え、公式をまとめる。	・直方体、立方体の体積を計算で求める方法を考える。 ・直方体、立方体の体積を求める公式をまとめる。	
2 体積の求め方のくふう (P. 43～45) 2時間			
4	○複合図形の体積の求め方を考え、説明することができる。	・複合図形の体積の求め方を考え、説明する。	
5			
3 いろいろな体積の単位 (P. 46～49) 6時間 (5時間)			
6	○「 m^3 」の単位を知り、直方体の体積を求めることができる。	・大きな直方体の体積を求める。 ・体積の単位「 m^3 」を知る。	
7	○「 m^3 」と「 cm^3 」の関係を理解する。	・「 m^3 」と「 cm^3 」の単位の相互関係を調べる。 【Hello! Math】 ・ 1m^3 の大きさを感じとる活動に取り組む。	
8	○内り、容積の意味を理解し、容積を求めることができる。	・入れものにはいるかさの求め方を調べる。 ・内り、容積の意味を知る。	
9	○「L」と「 cm^3 」, 「 m^3 」と「L」の関係を理解するとともに、体積の単位の関係をまとめる。	・水のかさと体積の関係を調べる。 ・体積の単位とその関係をまとめる。	
10	○身の回りのものの体積や容積を求めることができる。	【Hello! Math】 ・身の回りのものの体積や容積を調べる。 ・1Lのかさの入れものをつくる。	・学校の授業以外の場で、1Lのかさの入れものをつくる活動に取り組ませることにより、 <u>1時間扱いとする。</u>
11			
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがいやすい問題」(P. 50)で、学習内容をより確かなものにする。		

12	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.51)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P.129)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

4 比例〔ともなって変わる2量の関係を調べよう〕 (上P.52~54)

5月下旬〔2時間〕

【単元の目標】

- ・簡単な場合の比例の意味を理解し、伴って変わる2つの量に着目し、2つの量の関係を整理してきまりを見いだすとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…簡単な場合について、伴って変わる2つの量の間に成り立つ比例の関係を理解している。
- 思・判・表**…伴って変わる2つの量の関係を整理して表や式を用いて表し、きまりを見いだしている。
- 態度**…伴って変わる2つの量の変わり方に関心を持ち、きまりなどの特徴を見いだすことよき気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○伴って変わる2つの量の関係を表や式に表し、対応のきまりや変わり方について理解する。	・直方体の高さを2倍、3倍、…にしたときの、高さと同体積の関係を調べる。 ・直方体の高さを2、3、…でわったときの、高さと同体積の関係を調べる。	
2	○比例の関係の理解を深め、数直線が比例の関係を表すことを理解する。	・リボンを買う長さを2倍、3倍、…にすると、代金がどのように変わるか調べる。 ・リボンの長さと同代金の関係について、数直線を使って確認する。	

5 小数のかけ算〔小数をかける計算のしかたを考えよう〕 (上P.56~70)

5月下旬~6月中旬〔12時間〕 **[10時間]**

【単元の目標】

- ・乗数が小数の場合の計算の意味や仕方を理解し、整数の乗法の計算と関連づけて、その計算の仕方を図や式、ことばなどで考え説明するとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…(整数、小数)×(小数)の意味や計算の仕方を理解して、その計算ができるとともに、小数の場合も整数と同じように面積や体積の求積公式や交換、結合、分配法則が成り立つことを理解している。
- 思・判・表**…(整数、小数)×(整数)の計算の仕方をもとに、(整数、小数)×(小数)の計算の仕方を考え、説明している。
- 態度**…小数が整数と同じ十進位取り記数法で表されていることをもとに、小数の計算も整数の計算と同じように考えることができるというよき気づき、学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.55)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	小数をかける計算 (P.56~60) 4時間 (3時間)		
1	○単元アプローチ (P.56)		
・	・既習のかけ算を振り返り、未習のかけ算への見通しを持つ。		
2	○整数に小数をかけることの意味を考え、説明することができる。	・1 m80円のリボンを2.3m買って代金を求める場面を立式し、その式になる理由を説明する。	・P.56の内容に取り組み、これまでに学習したかけ算について振り返らせる。今後の学習への見通しを持たせておくことで、 <u>1時間</u> 扱いとする。

※	「よみとろう あらわそう」(P.142)で、4年までに使用してきたテープ数直線図から2本数直線図への転換を図り、2本数直線図のよみ方・かき方を確認する。	
3	○整数に小数をかける計算の仕方を考える。	・ 80×2.3 の計算の仕方を考える。 ・考えを発表し、 80×2.3 の計算の仕方について話し合う。
4	○純小数をかける計算の仕方を考え、その積は被乗数より小さくなることを理解する。	・ 80×0.6 の計算の仕方を考えることを通して、小数(純小数)をかける計算の意味を知る。
2 小数のかけ算 (P.61~65) 5時間		
5・6	○小数に小数をかけることの意味を理解し、計算の仕方を考えとともに、その筆算の仕方を考える。	・ 1.7×2.3 の計算の仕方を考える。 ・(小数)×(小数)の筆算の仕方を考える。
7	○小数第二位を含む(小数)×(小数)の筆算の仕方を理解する。	・ 1.57×3.6 の筆算の仕方を考える。 ・小数をかける計算の筆算の仕方をまとめる。
8	○末尾が0になる場合、積が1より小さい場合の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・末尾が0の場合、積が1より小さい場合の(小数)×(小数)の筆算の仕方を考える。
9	○乗数の大きさによる、被乗数と積の関係を理解する。	・小数をかけるときの乗数と積の大きさについて調べる。
3 小数のかけ算を使う問題 (P.66~67) 2時間		
10	○辺の長さが小数の場合も面積や体積の求積公式が適用できることを理解する。	・辺の長さが小数で表された長方形の面積や直方体の体積を求める。
11	○小数の場合でも、整数の場合に成り立った計算法則が成り立つことを理解する。	・小数をあてはめて、交換法則・結合法則・分配法則が小数でも成り立つことを調べる。 ・分配法則が成り立つことを、面積図を使って説明する。
※	「つなげる算数」(P.68)で、面積や体積の公式や計算のきまりについて、数の範囲を広げ、統合的な視点で考察する。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)		
※	「わかっているかな?」「まちがいがやすい問題」(P.69)で、学習内容をより確かなものにする。	
12	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.70)に取り組む。 ・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P.130)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。	

6 小数のわり算〔小数でわる計算のしかたを考えよう〕 (上P.72~87)

6月下旬~7月中旬 [14時間] [12時間]

【単元の目標】

- ・除数が小数の場合の計算の意味や仕方を理解し、整数の除法の計算と関連づけて、その計算の仕方を図や式、ことばなどで考え説明するとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…(整数, 小数)÷(小数)の意味や計算の仕方, 商と被除数の大小関係やあまりの大きさについて理解し, (整数, 小数)÷(小数)の計算ができる。

思・判・表…(整数, 小数)÷(整数)の計算の仕方をもとに, (整数, 小数)÷(小数)の計算の仕方を考え, 説明している。

態 度…小数が整数と同じ十進位取り記数法で表されていることをもとに、小数の計算も整数の計算と同じように考えることができるというよさに気づき、学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.71)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 小数でわる計算 (P.72~76) 4時間 (3時間)			
1	○単元アプローチ (P.72) ・既習のわり算を振り返り、未習のわり算への見通しを持つ。		
2	○整数を小数でわることの意味を考える。	・2.4mの代金が96円のリボンの1mのねだんを求める場面を立式し、その式になる理由を説明する。	・P.72の内容に取り組み、これまでに学習したわり算について振り返らせる。今後の学習への見通しを持たせておくことで、1時間扱いとする。
※	「よみとろう あらわそう」(P.143)で、4年までに使用してきたテープ数直線図から2本数直線図への転換を図り、2本数直線図のよみ方・かき方を確認する。		
3	○整数を小数でわる計算の仕方を考える。	・ $96 \div 2.4$ の計算の仕方を考える。 ・考えを発表し、 $96 \div 2.4$ の計算の仕方について話し合う。	
4	○純小数でわる計算の仕方を考え、その商は被除数より大きくなることを理解する。	・ $56 \div 0.8$ の計算の仕方を考えることを通して、小数(純小数)でわる計算の意味を知る。	
2 小数のわり算 (P.77~82) 6時間			
5	○小数を小数でわることの意味を理解し、計算の仕方を考えるとともに、その筆算の仕方を考える。	・ $7.36 \div 2.3$ の計算の仕方を考える。 ・(小数)÷(小数)の筆算の仕方を考える。	
6	○(小数)÷(小数)の筆算の仕方を理解する。	・ $0.864 \div 0.24$ の筆算の仕方を考える。 ・小数でわる計算の筆算の仕方をまとめる。	
7	○わり進む場合、商が1より小さい場合の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・わり進む場合、商が1より小さい場合の(小数)÷(小数)の筆算の仕方を考える。	
8	○除数の大きさによる、被除数と商の関係を理解する。	・小数でわるときの除数と商の大きさについて調べる。	
9	○あまりのある場合の除法について、除数とあまりの大きさについて考える。	・小数でわる計算のあまりの大きさを考える。 ・あまりのある(小数)÷(小数)の筆算による仕方をまとめる。	
10	○商を概数で表す場合の求め方を考える。	・小数のわり算で商を概数で求める。	
3 倍を表す小数 (P.83~85) 3時間			
11	○比較量、基準量が小数のとき、何倍かを除法で求めることができる。	・小数で表された数について、倍を表す数を求める。	
12	○整数倍のときと同じように、小数倍を用いて、比較量を求めることができる。	・倍を表す小数を用いて、比較量を求める。	
13	○整数倍のときと同じように、小数倍を用いて、基準量を求めることができる。	・倍を表す小数を用いて、基準量を求める。	

学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがいやすい問題」(P.86)で、学習内容をより確かなものにする。		
14	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.87)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P.131)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

● どんない計算になるか考えよう (上P.88)

7月中旬 [1時間]

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○乗法・除法を使って問題を解決することを通して、演算を決定する力を伸ばす。	・問題文を読み、どのような計算で求められるかを考えて、解決する。	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場での学習としてもよい。

* 復習 (上P.89~90) 配当時数なし

※	「復習」(P.89~90)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。
---	--

7 整数の性質 [整数の性質を調べよう] (上P.92~102)

9月上旬~9月中旬 [9時間] [8時間]

【単元の目標】

- ・偶数、奇数の意味や倍数、公倍数、最小公倍数、約数、公約数、最大公約数の意味や求め方を理解し、整数は観点を決めると類別できるよさを知るとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…偶数と奇数の意味を理解し、整数を分類できるとともに、倍数、公倍数、最小公倍数、約数、公約数、最大公約数の意味を理解し、それらを求めることができる。

思・判・表…整数を偶数、奇数や倍数、約数の観点で分類し、その性質を考えている。

態 度…整数の性質の特徴について考えたことを振り返り、学習したことを生活の場面で活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.91)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	偶数と奇数 (P.92~94) 2時間		
1	○単元アプローチ (P.92)		
2	○整数は、偶数と奇数の2つの集合に分けられることを理解する。	・赤と白の2つのチームのゼッケン番号を調べる。 ・偶数、奇数の意味を知り、整数を類別する。	・P.92の整数の分け方について、わかったことをノートにかかせておく。授業では、整数を2でわったときのあまりに着目させて分類する活動に集約することにより、1時間で扱うことも考えられる。
2	倍数と公倍数 (P.95~98) 3時間		
3	○倍数の意味について理解する。	・色板をならべ、並べた色板の縦と横の長さを調べる。 ・倍数の意味を知り、求め方を調べる。	
4	○公倍数、最小公倍数の意味について理解する。	・色板をならべ、正方形ができる場合の1辺の長さを調べる。 ・公倍数、最小公倍数の意味を知る。	
5	○公倍数をくふうして求めることができる。	・2つの数の公倍数の見つけ方を考える。 ・3つの数の公倍数を求める。	

3 約数と公約数 (P. 99~101) 3時間			
6	○約数の意味について理解する。	・あまりの出ない鉛筆の分け方を調べる。 ・約数の意味を知り、求め方を調べる。	
7	○公約数、最大公約数の意味について理解する。	・どちらもあまりの出ない鉛筆とノートの分け方を調べる。 ・公約数、最大公約数の意味を知る。	
8	○公約数をくふうして求めることができる。	・2つの数の公約数の見つけ方を考える。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
9	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 102)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P. 132)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

8 分数のたし算とひき算〔分数の計算のしかたを考えよう〕 (上P. 104~115)

9月下旬~10月上旬 [11時間] [10時間]

【単元の目標】

- ・分母をそろえることの意味を考え、異分母分数の大きさを比べたり、異分母分数の加法と減法の計算ができたりするとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…約分や通分の意味、異分母分数の加法及び減法の計算の仕方を理解し、分数の大小を比べたり、異分母分数の加法及び減法の計算をしたりすることができる。
- 思・判・表**…異分母分数の加法及び減法の計算について、大きさの等しい分数の性質をもとに計算の仕方を考えている。
- 態 度**…分数の相等及び大小についての考え方をもち、異分母分数の加法及び減法の計算の仕方を考えるなど学習したことを活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 103)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 分数の大きさ (P. 104~109) 4時間			
1	○単元アプローチ (P. 104) ・カードを1枚ずつ2枚めくり、そこにかかれた分数の大きさの比べ方を考える。		
	○大きさの等しい分数の性質を理解し、そのつくり方を考える。	・数直線を使って、等しい分数のつくり方を考える。 ・大きさの等しい分数のつくり方をまとめる。	
2	○約分の意味と仕方を理解する。	・約分の意味を知る。 ・約分の仕方をまとめる。	
3	○通分の意味と仕方を理解し、分数の大きさを比べることができる。	・異分母分数の大きさの比べ方を考える。 ・通分の意味を知る。	
4	○通分の仕方について理解を深める。	・2つの分数の大きさを比べることを通して、より簡単に通分する方法を考える。 ・3つの分数の大きさを比べる。	
2 分数のたし算とひき算 (P. 110~113) 6時間			
5	○異分母分数(真分数)のたし算の意味を理解し、その計算ができる。	・異分母分数のたし算の仕方を考える。 例 $1/3+1/2$	

6	○答えが帯分数になる場合、約分できる場合のたし算の仕方を理解し、その計算ができる。	・答えが帯分数になる場合、約分できる場合のたし算の仕方を考える。 例 $3/4+2/3$, $3/10+1/6$	
7	○帯分数どうしのたし算ができる。	・帯分数のたし算の仕方を考える。 例 $1\frac{1}{2}+2\frac{1}{3}$	
8	○異分母分数（真分数）のひき算の意味を理解し、その計算ができる。	・異分母分数のひき算の仕方を考える。 例 $2/3-1/2$	
9	○答えが約分できる場合や帯分数どうしのひき算の仕方を理解し、その計算ができる。	・答えが約分できる場合や、帯分数どうしのひき算の仕方を考える。 例 $5/6-3/10$, $3\frac{1}{3}-1\frac{1}{2}$	
10	○3つの分数の計算ができる。	・3つの分数の計算をする。 例 $1/2+2/3-1/4$	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがしやすい問題」(P.114)で、学習内容をより確かなものにする。		
11	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.115)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P.133)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

● 活用〔ソフトボール投げのライン引き〕 (上P.116~118) 10月上旬 [1時間]

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○図形の性質を活用して、問題を考え説明することができる。	・巻き尺を使って正三角形をつくる手順を考え、説明する。 ・ 30° の角をつくる手順を考え、説明する。	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場での学習としてもよい。

9 平均〔ならした大きさを表そう〕 (下P. 6～13)

10月中旬〔5時間〕 **[4時間]**

【単元の目標】

- ・測定の結果を量的にとらえることによって平均の意味を理解し、平均を求めることができるとともに、考えた過程を振り返り、平均の考え方を使得って身の回りの事象を考える態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…平均の意味を理解し、平均を求めることができる。
- 思・判・表**…測定の結果を、平均の考え方をういて量的にとらえている。
- 態 度**…平均を用いることよさに気づき、平均の考え方を使得って生活に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
※	「次の学習のために」(P. 5)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	○単元アプローチ (P. 6) ・「ならす」ということのイメージを持つ。		
	○「ならす」ことの意味、及び平均の意味と求め方を理解する。	・ジュースの量をならす方法を考える。 ・平均の意味と求め方を知る。	
2	○値に0がある場合の平均の求め方や分離量の平均を小数で表せることを理解する。	・0があるときの平均の求め方を考える。 ・分離量の平均を小数で表す。	
3	○平均を求めるときに、飛び離れた値や予想外の測定値が出た場合の処理の仕方を理解する。	・平均から全体の量を予想する。 ・飛び離れた値や予想外の値の処理の仕方を考える。	
4	○平均を利用して、およその距離をはかる方法を理解する。	【Hello! Math】 ・歩幅を使って、およその長さをはかる。 ・歩幅を使って、身の回りの道のりを調べる。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがいやすい問題」(P. 12)で、学習内容をより確かなものにする。		
5	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 13)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。

10 単位量あたりの大きさ〔こみぐあいなどの比べ方を考えよう〕 (下P. 16～31)

10月中旬～10月下旬〔12時間〕 **[10時間]**

【単元の目標】

- ・こみぐあいや速さなどを単位量あたりの大きさを表したり、比べたりすることができるようになるとともに、2つの数量の関係に着目して比較することよさに気づき、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…人口密度や速さなど単位量あたりの大きさの意味や表し方を理解し、その大きさを計算で求め、比べることができる。
- 思・判・表**…人口密度や速さなど異種の2量の割合でとらえられる量について、単位量あたりの大きさの考えを用いて考え、説明している。
- 態 度**…異種の2量の割合でとらえられる数量について、単位量あたりの大きさの考えを用いて比較することよさに気づき、生活に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 15)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		

1 単位数あたりの大きさ (P. 16~22) 5時間			
1	○単元アプローチ (P. 16)		
・	・こみぐあいのイメージを持つ。		
2	○こみぐあいの比べ方を考えるとき、こみぐあいを調べるとき、2量のうち一方の大きさにそろえて比べればよいことを理解する。	・シートの数と子ども的人数から、こみぐあいの比べ方を考える。 ・こみぐあいを比べる方法を話し合う。	
3	○人口密度の意味とその求め方を理解する。	・人口密度の意味を知り、その求め方を考える。	
4	○単位数あたりの大きさの考えを用いて、問題を解決することができる。	・畑でとりたいもの重さと畑の面積から、とれぐあいを比べる。 ・単位数あたりの大きさの意味を知る。	
5	○単位数あたりの大きさについて理解を深める。	・針金の重さや長さを、単位数あたりの大きさの考えを適用して調べる。	
2 速さ (P. 23~29) 6時間 (5時間)			
6	○速さの比べ方を理解する。	・3人のソーラーカーの速さの比べ方を考える。 ・速さの比べ方についてまとめる。	
7	○速さの表し方や比べ方を理解する。	・新幹線の「のぞみ」号と「はやぶさ」号の速さを比べる。 ・速さを求める公式を知る。 ・時速、分速、秒速という速さの表し方を知る。	
8	○速さの公式をもとに、道のりを求めることができる。	・飛行機の速さと時間から道のりの求め方を考える。	
9	○速さの公式をもとに、時間を求めることができる。	・自転車で走る道のりと速さから時間を求める。	
※	「よみとろう あらわそう」(P. 158) で、速さ、道のり、時間を求める際に使用してきた2本数直線図の違いを確認し、問題解決の際の思考の道具や説明の道具として機能することを目指す。		
10	○仕事の速さも、単位数あたりの大きさを用いて比べられることを理解する。	・2つのプリンターの印刷速度を比べる。	
11	○身の回りのものの速さを調べようとする。	【Hello! Math】 ・身の回りのいろいろなものの速さを調べ、自分のテーマをきめてまとめる。	・学校の授業以外の場で、【Hello! Math】の活動に取り組み、調べたことをノートにまとめさせる。
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがいやすい問題」(P. 30)で、学習内容をより確かなものにする。		
12	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 31)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P. 144)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

11 分数と小数, 整数 [分数と小数, 整数の関係を調べよう] (下P. 32~40)

11月上旬 [7時間] **[6時間]**

【単元の目標】

- 整数や小数を分数の形になおしたり, 分数を小数で表したりする方法を考えるを通して, 分数と小数, 整数の関係を理解するとともに, 計算の結果をいつでも1つの数で表すことができるよさに気づき, 考えた過程を振り返り, 学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- | | |
|-------|--|
| 知・技 | …分数と小数, 整数の関係を理解するとともに, 整数についての除法の結果を分数で表すことができる。 |
| 思・判・表 | …既習事項をもとに, 整数や小数を分数の形になおしたり, 分数を小数で表したりする方法を考えている。 |
| 態 | …分数と小数, 整数の関係について考えたことを振り返り, 分数で表すことのよさに気づき, 生活や学習に活用しようとしている。 |

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1 わり算と分数 (P. 32~36) 3時間			
1	○単元アプローチ (P. 32) ・1Lのジュースを何等分かしたときの1人分の量を考える。	○整数のわり算の商を分数で表すことができる。 ・2Lのジュースを3人で等分する場面を通して, 整数のわり算の商を分数で表す方法を考える。	
2	○分数倍の意味と表し方を理解する。	・紙飛行機を飛ばしたきよりを比べることを通して, 倍が分数でも表されることを知る。	
3	○これまでの分数の学習を振り返り, 分数に関する理解を深める。	・長さについて, $\frac{3}{4}$ という分数を使っているいろいろな場面をつくり発表する。 ・分数にはいろいろな使われ方があることをまとめる。	
2 分数と小数, 整数 (P. 37~39) 3時間			
4	○分数と小数が同じ大きさを表すことをとらえるとともに, 分数を小数で表す方法を理解する。	・わり算の答えを分数と小数で表す。 ・分数を小数で表す方法を考える。	
5	○小数と分数の関係について考え, 分数についての理解を深める。	・小数を分数で表す方法を考える。	
6	○整数と分数の関係について考え, 分数についての理解を深めるとともに, 整数, 分数, 小数の大小比較の仕方を理解する。	・整数を分数で表す方法を考える。 ・整数, 分数, 小数の大きさを比べる。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
7	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 40)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際, 児童がわからなかった問題は, 個別に支援する。

12 割合〔比べ方を考えよう〕 (下P. 42~54)

11月中旬~11月下旬 [10時間] **[8時間]**

【単元の目標】

- ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べる場合に、数量の関係を数直線などに表して基準量や比較量を見だし割合を百分率や歩合を用いて表すことができるとともに、百分率や歩合が日常生活に用いられていることに気づき、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…割合、百分率の意味を理解し、2つの数量の関係から割合を求めたり、割合をもとにして基準量や比較量を求めたりすることができる。

思・判・表…割合を比べるのに、2つの数量の関係を数直線や式に表して考えている。

態度…身の回りの事象を割合を用いて比べるよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 41)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	割合と百分率 (P. 42~48) 5時間 (4時間)		
1	○単元アプローチ (P. 42)	・輪投げの記録を使って、いちばんうまく投げられた班について考える。	
2	○同種の2量の大きさを、一方の数量がもう一方の数量の何倍になっているかで比べることができる。	・輪投げの結果を見て、どの班がいちばんうまく投げられたか比べる。	・実際に輪投げはさせず、P. 42に示された「輪投げの記録」を使って輪投げのうまさを比べることにより、 <u>1時間扱い</u> とする。
3	○割合の意味と求め方を理解する。	・数直線図を使って、比べる量、もとにする量の意味を知る。 ・割合の意味と求め方を知る。	
4	○百分率の意味と求め方を理解する。	・1パーセントの大きさを知る。 ・百分率の意味と表し方を知る。	
5	○歩合の意味と求め方を理解する。	・1割の大きさを知る。 ・歩合の意味と表し方を知る。	
2	割合を使う問題 (P. 49~52) 4時間		
6	○もとにする量と割合から比べる量を求めることができる。	・数直線図に数量の関係を表す。 ・比べる量の求め方を考える。	
7	○比べる量と割合からもとにする量を求めることができる。	・数直線図に数量の関係を表す。 ・もとにする量の求め方を考える。	
※	「よみとろう あらわそう」(P. 159)で、割合、比べる量、もとにする量を求める際に使用してきた2本数直線図の違いを確認し、問題解決の際の思考の道具や説明の道具として機能することを目指す。		
8	○割引の場面について、代金の求め方を理解する。	・数直線図に数量の関係を表す。 ・割引の場面について、代金の求め方を考える。	
9	○割合を使って判断し、説明することができる。	・パン屋での買い物について、条件をよみとって、どちらが得か、自分の考えを説明する。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがしやすい問題」(P. 53)で、学習内容をより確かなものにする。		
10	○学習内容の理解を確認する。	○「たしかめポイント」(P. 54)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P. 145)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

13 正多角形と円〔円をくわしく調べよう〕 (下P. 56～71)

11月下旬～12月中旬 [12時間] **[10時間]**

【単元の目標】

- 正多角形の意味や性質、円周率の意味及び円周の長さの求め方を理解し、図形を構成する要素に着目して、正多角形の性質や特徴、直径の長さに対する円周の長さの割合を考えたりするとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…正多角形の意味や性質、及び円周率の意味や円周の長さの求め方を理解し、正多角形を作図したり、円周率を用いて円周の長さを求めたりすることができる。
- 思・判・表**…正多角形を作図する際、円と組み合わせることで性質や特徴を見いだしたり、円周の長さと直径、半径の関係を考えたりしている。
- 態度**…身の回りから正多角形を見つけようとしたり、円周率に関心を持ち、円周率を用いようとしたりするなどして、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 55)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
単元アプローチ (P. 56) 1時間 (0時間)			
1	○六角返しをつくる活動に 取り組む。	・166ページの図を使って、六角 返しをつくる。	・学校の授業以外の場で、単元ア プローチの活動に取り組みせ、わ かったことをノートにまとめさ せる。
1 正多角形 (P. 57～63) 5時間			
2	○正多角形の意味について 理解する。	・色紙を折ったり切ったりして、 形をつくる。 ・つくった形の辺や角について調 べる。 ・正多角形の意味を知る。	
3	○中心角を使った正多角形 の作図の仕方を理解する。	・円を使って、正八角形をかく方 法を考える。 ・円を使った正多角形のかき方を まとめる。	
4	○正六角形がかける理由を 説明する。	・コンパスを使って正六角形がか けるわけを考える。	
5 ・ 6	○正多角形をかくプログラ ミングについて、正多角形 の性質をもとに、筋道立て て考える。	【プログラミングを体験しよう】 ・正方形をかくプログラミングを 考える。 ・正三角形をかくプログラミング を考える。 ・正六角形をかくプログラミング を考え、それをもとに、正多角 形をかくプログラミングをま とめる。	
2 円周と直径 (P. 64～70) 5時間			
7	○円周の長さと直径の長さ の関係について考える。	・円周の意味を知る。 ・正六角形と円を使って、円周の 長さと直径の長さとの関係を 調べる。	
8	○いろいろな円の円周の長 さと直径の長さの関係を 調べることができる。	・具体物を使って円周の長さと直 径の長さをはかり、その関係を 調べる。 ・円周率の意味を知り、円周の長 さの求め方を考える。	
9	○円周の長さから、直径や半 径の長さを求めることが できる。	・円周の長さから半径や直径の長 さを求める。	

10	○直径の長さや円周の長さの変わり方を調べることができる。	・直径の長さや円周の長さの変わり方を調べる。	
11	○身の回りから円の形をしたものを探して、円周の長さをはかり、直径の長さを調べることができる。	【Hello! Math】 ・身の回りの円の形をしたものの直径の長さを調べる。	・学校の授業以外の場で、【Hello! Math】の活動に取り組みてもよい。
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
12	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.71)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P.146)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

*** 復習 (下P.73~74) 配当時数なし**

※	「復習」(P.94)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。
---	-------------------------------------

14 図形の面積 [面積の求め方を考えよう] (下P.76~98)

1月中旬~1月下旬 [14時間] **[13時間]**

【単元の目標】

・既習の面積の求め方をもとに、平行四辺形や三角形などの面積の求め方を考え、その求め方を理解するとともに、求積方法を考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…求積公式を使った平行四辺形や三角形などの面積の求め方を理解し、公式を用いて求めることができる。

思・判・表…平行四辺形や三角形などの面積の求め方を、等積変形や倍積変形の考えを用いて、既習の図形の面積の求め方をもとに考えている。

態 度…基本的な図形の面積に関心を持ち、その求積方法をくふうして考えることによって、数学のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.75)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	平行四辺形の面積 (P.76~82) 5時間		
1	○単元アプローチ (P.76)		
2	・いろいろな形の花壇の面積について、その広さが比べられるかを考える。		
2	○平行四辺形の面積の求め方を考え、その方法を説明することができる。	・平行四辺形の面積の求め方を考える。	
3	○平行四辺形の求積公式を考え、それを適用することができる。	・平行四辺形の面積を計算で求める方法を考える。 ・平行四辺形の底辺、高さの意味を知る。 ・平行四辺形の面積を求める公式をまとめる。	
4	○高さが平行四辺形の外にある場合でも、平行四辺形の求積公式が適用できる。	・高さが外側にある平行四辺形の面積の求め方を考える。	
5	○底辺と高さが同じならば、どんな平行四辺形でも面積が等しくなることを理解する。	・平行四辺形の面積と、底辺と高さの関係について調べる。	

2 三角形の面積 (P. 83~88) 4時間			
6	○三角形の面積の求め方を考え、その方法を説明することができる。	・三角形の面積の求め方を考える。	
7	○三角形の求積公式を考え、それを適用することができる。	・三角形の面積を計算で求める方法を考える。 ・三角形の底辺、高さの意味を知る。 ・三角形の面積を求める公式をまとめる。	
8	○高さが三角形の外にある場合でも、三角形の求積公式が適用できる。	・高さが外側にある三角形の面積の求め方を考える。	
9	○底辺と高さが同じならば、どんな三角形でも面積が等しくなることを理解する。	・三角形の面積と、底辺と高さの関係について調べる。	
3 いろいろな図形の面積 (P. 89~96) 4時間			
10	○台形の面積の求め方を考え、その方法を説明することができる。	・台形の面積の求め方を考える。	
11	○台形の求積公式を考え、それを適用することができる。	・台形の面積を計算で求める方法を考える。 ・台形の上底、下底の意味を知る。 ・台形の面積を求める公式をまとめる。	
12	○ひし形の面積の求め方を考え、その方法を説明することができる。 ○ひし形の求積公式を考え、それを適用することができる。	・ひし形の面積の求め方を考える。 ・ひし形の面積を求める公式をまとめる。	
※	「つなげる算数」(P. 95)で、台形の面積公式を使って平行四辺形や三角形の面積を求め、統合的な視点で考察する。		
13	○平行四辺形の底辺の長さを一定にして高さを変えたとき、面積は高さに比例することを理解する。	・平行四辺形の底辺の長さはそのままで、高さを変えていったときの、高さと面積の関係について調べる。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがいやすい問題」(P. 97)で、学習内容をより確かなものにする。		
14	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 98)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P. 147)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

15 帯グラフと円グラフ〔割合をグラフに表そう〕 (下P. 100~111)

2月上旬~2月中旬 [8時間] [7時間]

【単元の目標】

- ・円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的にとらえ考察するとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解するとともに、統計的な問題解決の方法を知っている。
思・判・表…目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的にとらえ考察している。

態 度…目的に応じてデータを集め、それを分類整理して特徴を調べようとしたり、円グラフや帯グラフを生活や学習に活用したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.99)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 帯グラフと円グラフ (P.100~105) 4時間			
1	○単元アプローチ (P.100) ・表と棒グラフを見て、図書室で貸し出された本の種類と数の特徴を考える。		
	○帯グラフと円グラフの用語と意味を理解する。	・帯グラフと円グラフを知る。	
2	○帯グラフや円グラフのしくみを知り、グラフのよみ方、特徴を理解する。	・帯グラフと円グラフのよみ方を知る。	
3 ・ 4	○帯グラフや円グラフのかき方を理解する。	・帯グラフ、円グラフのかき方を知る。	
2 表やグラフの利用 (P.106~110) 3時間			
5	○複数の表やグラフからデータの特徴を読み取り説明する。	・学校の図書室の利用について表した表やグラフを読み取り、いろいろな問題を解決する。	
6 ・ 7	○自分で調べたことや身の回りのことを、今までに学習した表やグラフにまとめ説明するとともに、統計的な問題解決の方法を理解する。	・自分で調べたことを表やグラフに表し、わかったことをまとめて発表する。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
8	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.111)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P.148)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

16 □や△を使った式〔数量の関係を式に表そう〕 (下P.113~116)

2月中旬 [3時間]

【単元の目標】

・伴って変わる2つの量の関係について、表などを利用して規則性を見つけ、変化の特徴を調べるとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…伴って変わる2つの量の間になり立つ関係を理解し、表や式に表すことができる。

思・判・表…伴って変わる2つの量の関係を表す方法を考え、2量の関係を整理して、きまりを見いだしている。

態 度…伴って変わる2つの量について、表や式などに表現したことを振り返り、きまりなどの特徴を見いだすことのよさに気づき、これらを生活や学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○差が一定で変わる2つの数量の関係を表や式に表し、対応のきまりや変わり方について考える。	・厚さ1cmの板を使って、本棚をつくるときの、内側の横の長さとお棚の横の長さを調べ、差が一定の変わり方を式に表す。	
2	○比例する2つの数量の関係を調べ、説明することができる。	・縦の長さが5cmの長方形の、横の長さとお面積を調べ、商が一定の変わり方を式に表す。	

3	○伴って変わる2つの量の関係を式に表し、式の意味を考える。	・長さの等しい棒を使って正方形をつくり、横に並べていくときの、正方形の数と棒の数の関係を調べ、変わり方を表を使わず、計算で求める方法を考える。	
---	-------------------------------	---	--

17 角柱と円柱〔柱の形を調べよう〕 (下P.118~127)

2月下旬～3月上旬〔7時間〕 **〔5時間〕**

【単元の目標】

- ・角柱や円柱の意味を理解し、構成要素に着目して見取図や展開図をかいたり、展開図から立体を構成したりするとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…角柱や円柱の意味や構成要素、性質を理解し、角柱や円柱の見取図や展開図をかいたり、展開図から立体を構成したりすることができる。

思・判・表…角柱や円柱の構成要素に着目して、角柱や円柱の性質を既習の直方体などと結びつけて考えている。

態 度…角柱や円柱の性質や構成要素を調べたり、身の回りから角柱や円柱を見つけたりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.117)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 角柱と円柱 (P.118~122) 3時間			
1	○単元アプローチ (P.118) ・箱の中の形の特徴を考え、どんな形を選んでいるかを考えるゲームをする。		
	○観点を決めて立体を分類するとともに、立体の意味を理解する。	・立体を角柱と円柱に分類する。 ・立体の意味を知る。 ・角柱、円柱の意味を知る。	
2	○角柱、底面、側面の意味を知り、角柱の性質と種類を理解する。	・角柱を調べ、その性質を知る。	
3	○円柱や高さを知り、円柱と角柱の性質を理解する。	・円柱を調べ、その性質を知る。 ・角柱と円柱の見取図をかく。	
2 角柱と円柱の展開図 (P.123~125) 3時間 (2時間)			
4	○三角柱の展開図をかくことができる。	・三角柱の展開図をかき、角柱をつくる。	
5	○円柱の展開図をかくことができる。	・円柱の展開図をかき、円柱をつくる。	
6	○身の回りから角柱や円柱の形をしたものを探そうとする。	【Hello! Math】 ・身の回りから角柱や円柱の形をしたものを探す。	・学校の授業以外の場で、 【Hello! Math】 の活動に取り組みせ、調べたことをノートにまとめさせる。
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがいやすい問題」(P.126)で、学習内容をより確かなものにする。		
7	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.127)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P.149)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

● 活用〔1年生をむかえる会の準備〕 (下P. 128~129) 3月上旬〔1時間〕

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○メダルの作り方やジュースの分け方について、式で表している関係を考え、説明することができる。	・メダルの作り方やジュースの分け方について、式で表している関係を考える。	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場での学習としてもよい。

● 活用〔いもの産地〕 (下P. 130~131) 3月上旬〔1時間〕

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○表やグラフで表されたいもに関する資料を調べ、わかったことを説明することができる。	・いもに関する資料について、表やグラフをもとに考える。	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場での学習としてもよい。

● 算数アドベンチャー〔立方体に色をぬろう〕 (下P. 132~133) 3月上旬〔1時間〕

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○色でぬられた立方体を調べ、色のぬられ方を説明することができる。	・色でぬられた立方体を調べ、色のぬられ方を考える	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場での学習としてもよい。

● 5年のまとめ (下P. 134~136) 3月上旬~3月中旬〔3時間〕 **〔0時間〕**

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1 ~ 3	○5年の学習内容についての理解を確かなものにする。	・5年の学習内容を確認する。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。